

～「死ぬな」「逃げろ」「助けろ」～

庄内地区タウンミーティング ～地域防災対策～



令和元年10月9日（水）19：30～
西条市 経営戦略部 危機管理課

防災情報レベル化の内容

警戒レベル	防災情報	住民の行動
5	災害の発生	命を守る最善の行動
4	避難勧告・指示	避難 美佳 
3	避難準備の情報	高齢者など避難 
2	注意報	避難備え確認 
1	数日以内に警報級の可能性	心構え

警戒レベルの低い方から

- ▼レベル1は、数日以内に大雨が予想される時
- ▼レベル2は、注意の呼びかけ
- ▼レベル3は「避難準備の情報」で、高齢者などは避難を開始する
- ▼レベル4は「避難勧告」や「避難指示」で、速やかに避難所に移動する、直ちに命を守る行動をとる
- ▼レベル5は「災害の発生」で、命を守る最善の行動をする

防災情報レベル化の狙い

増え続ける“防災情報”

大雨警報・洪水警報	避難勧告
指定河川洪水予報	避難指示(緊急)
記録的短時間大雨情報(1984年~)	避難準備・ 高齢者等避難開始(2005年~)
土砂災害警戒情報(2005年~)	
土砂災害メッシュ情報(2006年~)	
特別警報(2013年~)	
洪水警報の危険度分布(2017年~)	

防災情報は大きな災害を経験するたびに増えてきました。

防災情報のレベル化

レベル5
レベル4
レベル3
レベル2
レベル1

防災情報を整理・
体系化する土台

情報を統合・廃止?
名称をシンプルに?
住民向け 行政向け?
さらに議論を!

レベル化のイメージ

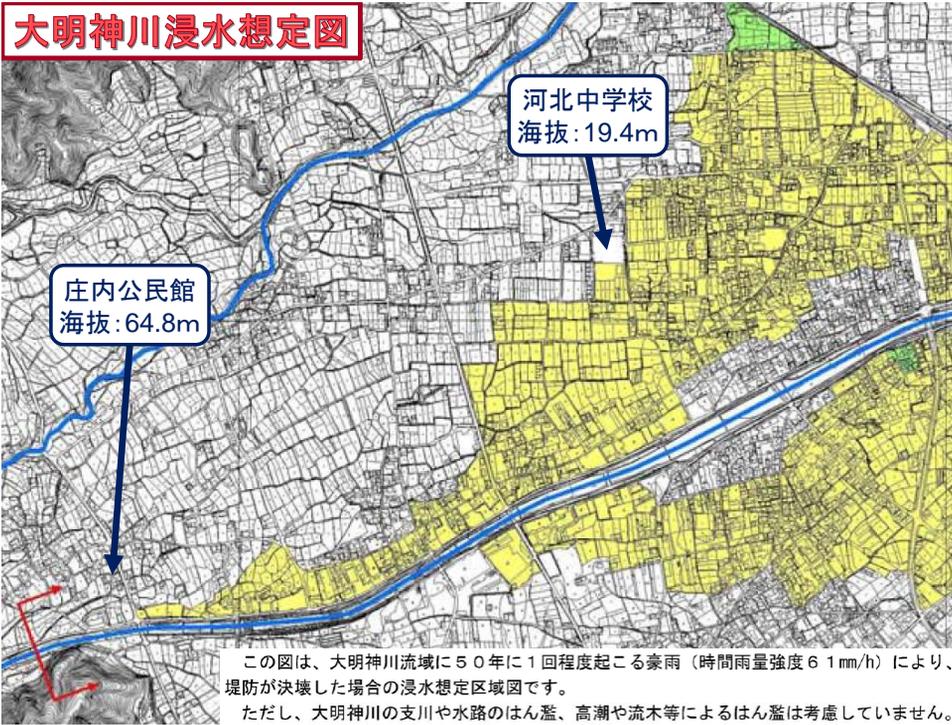
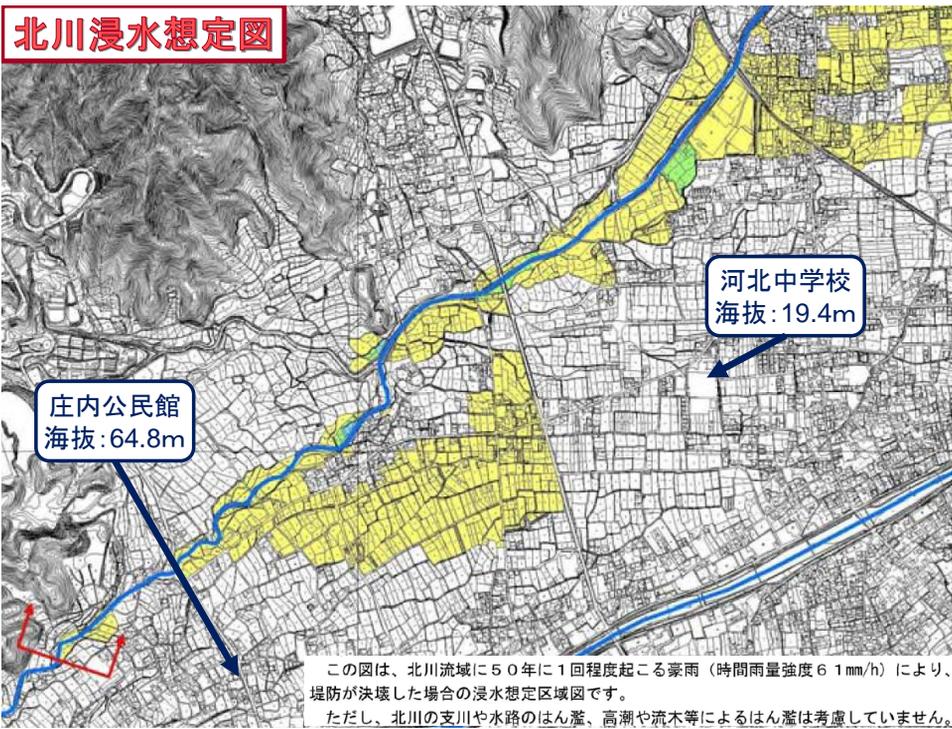
5	5	5
4	4	4
3	3	3
2	2	2
1	1	1
土砂災害	大河川の氾濫	中小河川の氾濫

規格(物差し)を統一

防災情報をあらためて整理してわかりやすく体系化する「土台」を示した、という意味があります。

土砂災害ハザードマップ





いま、防災は、第4段階へ

戦後における災害の教訓を踏まえた防災政策の歩みと「防災4.0」

「防災1.0」

1959年（昭和34年）

伊勢湾台風

（大規模な台風による多数の人的・物的被害）



防災に関する統一的な制度・体制の不在

災害対策基本法の制定
・中央防災会議の設置
・防災に関する総合的かつ長期的な計画である防災基本計画の作成

「防災2.0」

1995年（平成7年）

阪神・淡路大震災

（住宅の崩壊やライフラインの寸断、交通システムの麻痺、多数の被災者の発生等の都市型災害による甚大な被害）



政府の危機管理体制の不備、初動対応における課題

官邸における緊急参集チーム設置等の政府の初動体制の整備

耐震化が不十分な建築物の倒壊等による多数の被害 生活再建等を行えない被災者が多数存在

建築物の耐震改修促進法の制定（平成7年）
被災者生活再建支援法の制定（平成10年）

「防災3.0」

2011年（平成23年）

東日本大震災

（わが国の観測史上最大の地震、大津波の発生による甚大かつ広域的な被害）



最大クラスを想定した災害への備え不十分

大規模地震の被害想定・対策の見直し、「減災」の考え方を防災の基本理念として位置付け、想定しうる最大規模の洪水等への対策（水防法改正）、大規模災害時の復興の枠組み整備

自然災害と原子力災害の複合災害への想定が不十分

原子力規制委員会発足等の原子力政策の見直し（平成24年）

「防災4.0」

地球温暖化に伴う気候変動がもたらす災害の激甚化



多様な主体が参画する契機づくりとなり、国民の一人一人が防災を「自分ごと」ととらえ、自律的に災害に備える社会に向けた新たな防災のフェーズ（「防災4.0」）へ

内閣府「防災4.0」未来構想プロジェクト有識者提言より

平成30年7月豪雨を踏まえた 水害・土砂災害からの避難の在り方について

平成30年7月豪雨を踏まえた
水害・土砂災害からの避難のあり方について
（報告）

平成30年12月
中央防災会議 防災対策実行会議
平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関する
ワーキンググループ

「行政は万能ではなく
ひとりひとりを
助けには行けない」

「皆さんの命は
自身で守ってください」

「行政も全力で
サポートします」

平成30年12月

中央防災会議 防災対策実行会議

「平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ」による発表

阪神・淡路大震災での教訓

生き埋めや閉じ込められた際の救助

(資料) 「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」
(平成8年11月日本火災学会) より作成

自力で	家族に	友人に・隣人に	通行人に	救助隊に	その他
34.9%	31.9%	28.1%	2.6%	1.7%	0.9%

自助・共助 97.5%

公助 2.5%

自助・共助の重要性



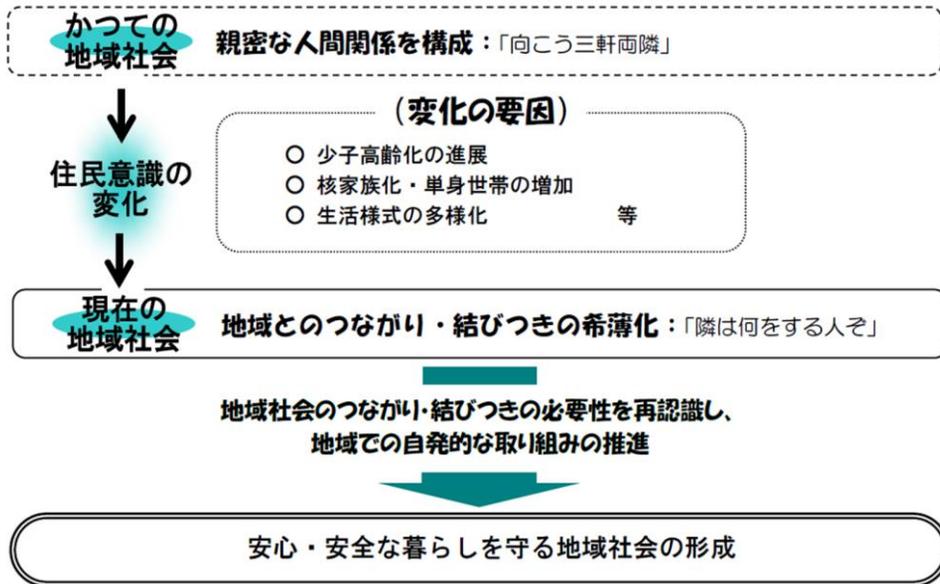
地域のコミュニティと防災

安全・防災は、さまざまな利害等の壁を超え、コミュニティの核となり、求心力となり得る共通理念である。

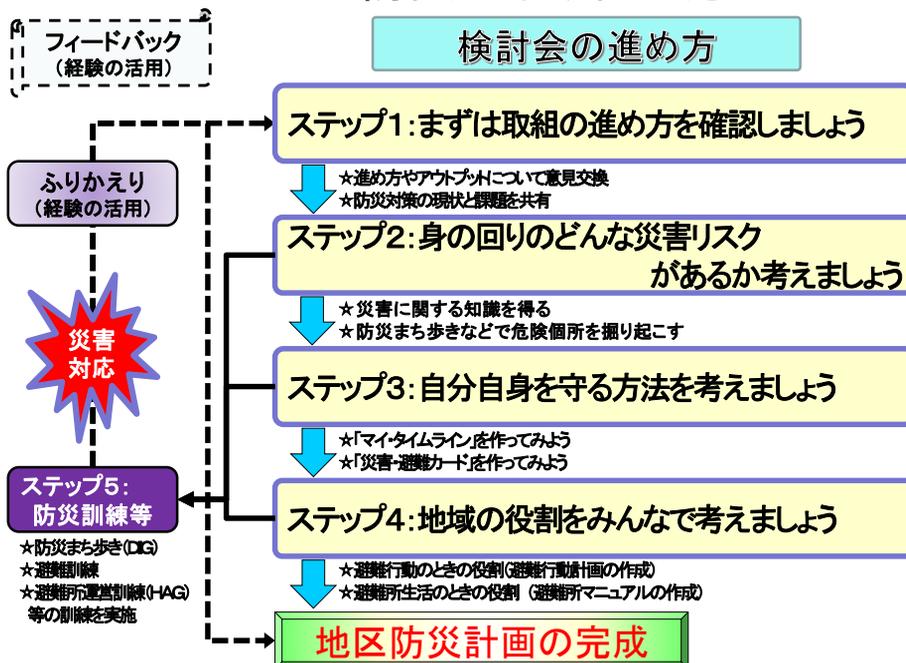


「私」と「公」の隙間を埋めるコミュニティをつくるきっかけとなり、「協働でいい町づくり」を推進する力となる。

希薄になりつつある地域社会の現状と求められる取組み



地区防災の取り組み方



検討の過程で

☑リスクを認識できる

- ・ 個人ごとの違いを認識できる
- ・ 災害ごとの違いを認識できる

☑防災・減災行動が具体的にわかる

- ・ いつ、どこへ、どこを通過して避難
- ・ 地域での役割
- ・ 事前の準備は、いつ、どのように

☑コミュニケーションの輪が広がる

- ・ 意見交換を通じて知り合いが増える
- ・ ご近所とのつながりが強くなる

※回数を重ねるごと、継続することによって、さまざまな効果が得られます。

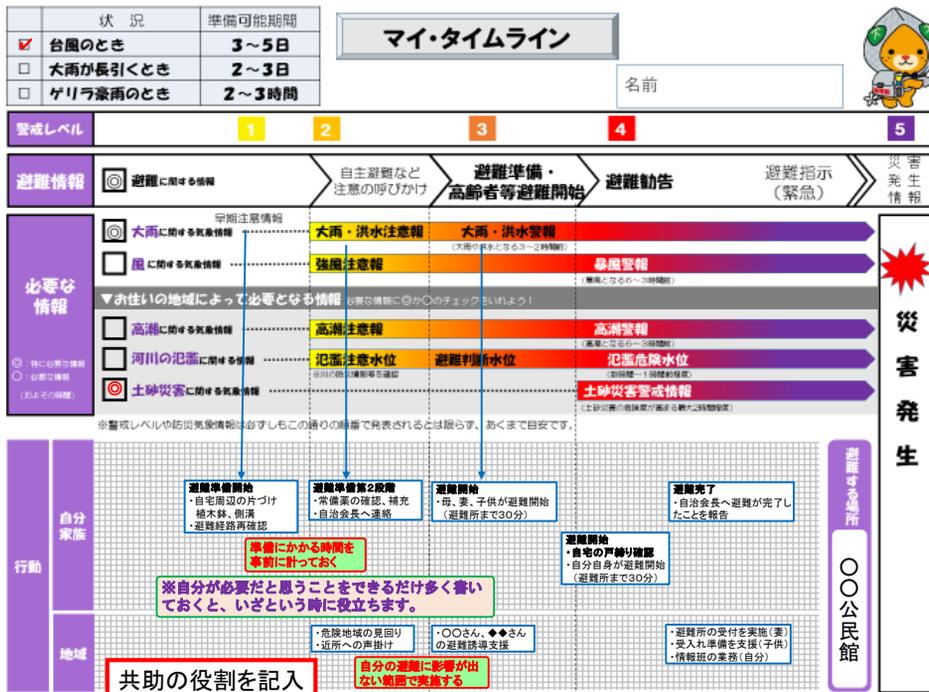
災害に強いコミュニティへ！

★マイ・タイムライン

★災害・避難カード

★防災訓練・イベント





災害・避難カードを活用した防災

7月豪雨のとき、大洲市三善地区は、浸水したが、人的被害ゼロでした。

- 自然災害による被害の軽減のためには、
住民自身による適時適切な避難がきわめて重要！
- 避難すべき場所などをあらかじめ認識しておくための
仕組みとして「災害・避難カード」を作成する！



これらの情報を、水害・土砂災害等 災害種別毎に整理



地域の特性に合わせたカードを作成

名刺タイプ(携帯可能なサイズ)の災害・避難カード

大洲市 三善地区「災害・避難カード」オモテ 1人1枚

点線をはさみで切って使用しましょう。(6人分)

「災害・避難カード」一わたしの情報		「災害・避難カード」一わたしの情報	
名前		名前	
性別	血液型	性別	血液型
生年月日		生年月日	
住所		住所	
電話番号		電話番号	
留意事項	持病、受入している薬など	留意事項	持病、受入している薬など

避難時は、このカードを持って行く!

大洲市 三善地区「災害・避難カード」ウラ 1人1枚

点線をはさみで切って使用しましょう。(6人分)

家族(頼りになる人)の緊急連絡先		家族(頼りになる人)の緊急連絡先	
氏名	連絡先(自宅・携帯など)	氏名	連絡先(自宅・携帯など)

電話がつかないときは、**171**(災害用伝言ダイヤル)を音声を録音し、自分の居場所を伝える。録音「1」

電話がつかないときは、**171**(災害用伝言ダイヤル)を音声を録音し、自分の居場所を伝える。再生「2」

～主な記載内容～

- 【左のカード】
- ・氏名
- ・住所
- ・生年月日
- ・血液型
- 【右のカード】
- ・頼りになる人の緊急連絡先
- ・災害伝言ダイヤルの使い方

※避難場所等は、別途作成しているマップに記している。



■赤い紐で首からかける「災害・避難カード」普段は室内の目立つ場所にかけておき、災害のおそれがある際は、首からかけて避難する

避難場所や避難ルートを記したマップ形式の災害・避難カード

大丸地区 わたしの避難行動(マイマップ)

※マップの作りかた、記載方法については大丸地区の防災マップを参照してください。

マイマップの使い方

- このマップは、避難場所や避難ルートを事前に決めておくことで、災害発生時にスムーズに避難できるようにするためのものです。
- 事前に避難場所や避難ルートを決めておくことで、災害発生時にスムーズに避難できるようにするためのものです。
- 事前に避難場所や避難ルートを決めておくことで、災害発生時にスムーズに避難できるようにするためのものです。

誰に声をかける? 誰と避難する?

- 避難する時、必ず声をかけ、助けを求め、避難場所まで避難しましょう。
- 避難する時、必ず声をかけ、助けを求め、避難場所まで避難しましょう。

編城市からの避難情報の受け方

① 避難情報を受け取ったとき、避難場所や避難ルートを事前に決めておくことで、災害発生時にスムーズに避難できるようにするためのものです。

② 避難情報を受け取ったとき、避難場所や避難ルートを事前に決めておくことで、災害発生時にスムーズに避難できるようにするためのものです。

「災害に強いコミュニティへ！」

色々な防災訓練やイベント



他の訓練現場を見学することで、訓練の準備や進め方などの理解が深まります

防災・減災について、行政との連携



自分たちの命は、自分たちで守る



7月豪雨災害のとき、自分たちで作った地区防災計画により難を逃れた大洲市三善地区や松山市高浜地区のように災害に強い地区づくりをめざしましょう！